

戦略研究と高度研究体制の構築を

平成7年5月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議第121回総会報告

日本学術会議第121回総会は、平成7年4月19日から3日間にわたって開催されました。

総会初日の午前中は、①「阪神・淡路大震災調査特別委員会の設置」、②「国際農業工学会 (Commission Internationale de Genie Rural : CIGR) への加入」の

2件が提案され、いずれも賛成多数で可決されました。

総会2日目は、伊藤正男日本学術会議会長から、「日本学術会議の課題～高度研究体制を目指して～」と題した基調報告が行われ、会長が提起したさまざまな課題について、会員間の自由討議が繰り広げられました。

我が国の学術体制を巡って (抄)

日本学術会議会長 伊藤 正男

大学では知的興味に基づく基礎研究を、企業では実用上の重要性を持つ応用研究を、という古典的な役割分担はもはや成り立たなくなっている。最近英米両国で基礎研究と応用研究の間に設けられた「戦略研究」のカテゴリーは、工学、農学、医歯薬学系の研究室では意識しないまま基礎研究として行われてきたものを多く含み、また企業において「目的基礎研究」と呼ばれるカテゴリーとはほぼ対応している。研究者の知的興味と実用価値とは一般的にあって相反するが、そのいずれかに限定せず、両方の要素を両立させるカテゴリーである。研究費を受ける側にとっても、出す側にとっても受容し易い論理を提供し、科学政策上甚だ有効な整理概念である。(中略)

我が国においては、応用研究に優れる一方、基礎研究は一般に貧弱であり、我が国の応用研究はむしろ国外の基礎研究を基盤とすることが少なくなかった。この点は英国とはちょうど事情が逆であるが、解離した基礎研究と応用研究の間を埋める必要があるのは同様である。この解離の社会的背景にはやはり我が国独自のものがある。我が国の大学においては、研究の自由の主張と産学協同の弊害に対する危惧が強かった一方、

企業の方では、我が国の大学の基礎研究にあまり大きな利用価値を見出さなかったといっは言い過ぎであろうか。率直に言って、今日でも多くの企業家は、大学等で行われる基礎研究に利用価値を認めるのではなく、基礎研究に対する精神的な共感ないし慈善 (チャリティ) の気持ちから、人材供給のパイプをつなぐ目的のため、あるいは基礎研究只乗りの非難をかわすために、これを支援する必要があると考えておられるように見受けられるといえは誤解であろうか。企業等から大学への奨学寄付金が平成4年度501億円に及んだのはまことに喜ばしいことであるが、受託研究費が53億円に止まっているのは、依然として企業にそのような潜在意識のあることを示唆するように思えてならない。「戦略研究」の概念は、大学等でこれまで基礎研究として一括されてきたカテゴリーの中で、近い将来に応用される可能性を持つものに特別の照明を当て、その企業との近縁性を意識させる効果がある。また、会社等で使われる基礎研究費は、年間6千50億円にのぼるが、これは実際には大部分が「戦略研究」に向けられていると推測され、ここに大学等の研究者との協力の大きな素地が十分にあることが示唆される。(後略)

第11回(1995年度)京都賞受賞者に 林 忠四郎京都大学名誉教授

人類の科学・文明の発展、また精神的な深化、高揚の面に著しく貢献した人々の功績を称え贈呈される京都賞は、毎年①先端技術部門、②基礎科学部門、③精神科学・表現芸術部門の3部門に1賞ずつ贈られます。第11回に当たる平成7年度は、②基礎科学部門の対象分野として地球科学・宇宙科学の分野において優れた業績と幅広く多大な影響を与えた方々の中から慎重な審議の結果、日本天文学会特別会員でもある京都大学名誉教授林 忠四

郎氏が選ばれました。受賞理由は：

“原子核から流体力学に及ぶ基礎物理学の知識・手法を宇宙現象の解析に導入し、星の進化や、太陽系起源等の研究により、天体の諸現象を理論的に解明し、現代宇宙物理学の発展に多大な貢献をした。”
というものです。

なお、京都賞の受賞式は平成7年11月10日(金)午後国立京都国際会館大会議場で行われます。天文学の分野では第3回(1987年)のヤン・ヘンドリック・オールド(オランダ)以来2人の受賞です。京都賞は財団法人稲盛財団により設立運営される国際賞です。

寄贈図書リスト

宇宙のデータブック：比田井昌英，寿岳潤，高瀬文志郎，東海大学出版会，資料，A5判，79p，1545円

地底から宇宙をさぐる：戸塚洋二，岩波書店，読み物，B6判，128p，1000円

相対論に必要な数学：大場一郎，共立出版，教科書，B6判，91p，1380円

月報だより

会務案内

内地留学奨励金の希望者を募集します

応募される会員は、下記要項をご参照の上お申し込み下さい。

留学期間：1995年11月から約1年の希望期間

申し込み：所定用紙に必要事項を記入し、「〒181 三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に申し込んで下さい。(用紙は日本天文学会事務室に用意してあります)

申し込み締切：1995年9月20日

審査：当学会選考委員会(内規第5条)で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

支給額：25万円以下で、支給予定は11～12月とします。

人数：原則として1人、新人を歓迎します。

(庶務理事 田中培生)

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など)、2. (1)所属部門・所属講座、(2)勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1)着任時期、(2)任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1)提出先、(2)問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他(待遇など)

名古屋大学大学院理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻教官

- 1) 教授 1名
- 2) 宇宙構造論講座
- 3) 宇宙物理学理論

当専攻ではX線、赤外線、電波観測を中心とした宇宙物理学の研究を推進していますが、これらの幅広い分野にわたって深い関心を持ちつつ、理論的な研究を進めていかれる方を希望します。

- 5) 決定後できるだけ早い時期(出来れば1996年4月1日)
- 7) ○履歴書、○研究歴、○研究計画書、○論文リストおよび主要論文の別刷(各2部)、○本人に関する意見を求める方2名の氏名と連絡先、○他薦の場合は推薦書
- 8) 締切日 1995年10月9日(月)必着のこと
- 9) (1)送付先 〒464-01

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科

物理学教室主任 山下廣順

電話 052-789-3540 FAX 052-789-2919

(2)問合せ先 天体物理学研究室 福井康雄

電話 052-789-2837 FAX 052-789-2845

- 10) 封筒の表に「素粒子宇宙物理学専攻教官公募書類在中」と朱筆し、簡易書留でお送り下さい。

研究助成

平成7年度 笹川科学研究助成について

標記の募集要項が天文学会にきておりますのでお知らせ